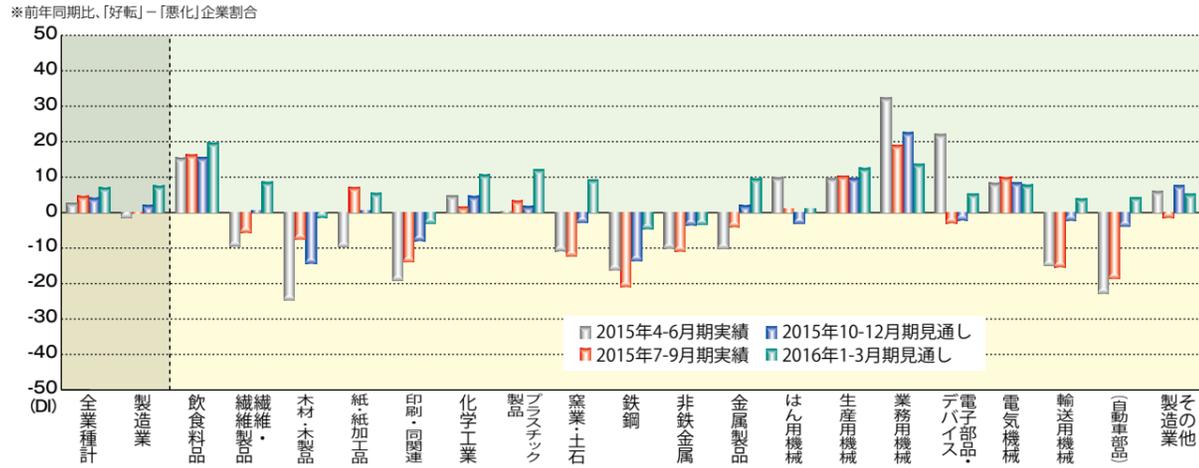


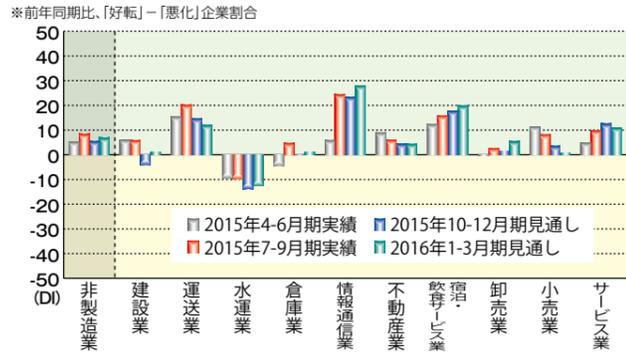
①-2 業種別業況判断

製造業：機械関連の業種に加え、飲食料品でプラス水準
非製造業：ほとんどの業種でプラス水準

製造業 業種別業況判断DIの推移<季節調整値>



非製造業 業種別業況判断DIの推移<季節調整値>



●製造業
製造業は、機械関連や飲食料品などの業種で、DIの水準はプラスとなった。鉄鋼、窯業・土石など素材関連の業種や輸送用機械では、マイナス水準となったが、来期以降は改善する見通し。

●非製造業
非製造業は、運送業や情報通信業、宿泊・飲食サービス業などほとんどの業種でDIはプラス水準となった。来期以降も堅調に推移する見通し。

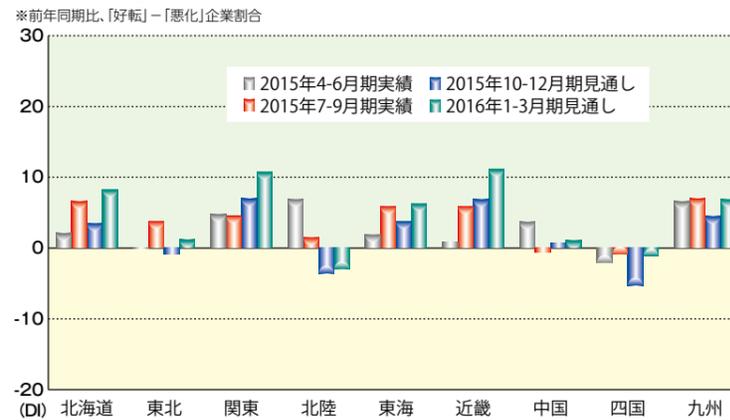
①-3 地域別業況判断

7地域でプラス水準

業況判断DIを地域別にみると、6地域で上昇し、北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、九州の7地域でプラス水準となった。

来期は、6地域でプラス水準となる見通し。

地域別業況判断DIの推移<季節調整値>



データで見る中小企業の動き
全国中小企業動向調査(中小企業編)の結果概要

2015年7-9月期実績、10-12月期および2016年1-3月期見通し

『中小企業の景況は、緩やかに回復している』

日本政策金融公庫総合研究所は10月20日、「全国中小企業動向調査結果(2015年7-9月期実績、10-12月期以降見通し)」を発表した。



今回調査のポイント

- ① 業況判断 DI 2期連続で上昇し、プラス水準。来期以降もプラス水準が続く見通し。
- ② 売上 DI 2期連続で上昇し、10期連続でプラス水準。来期以降も上昇する見通し。
- ③ 価格関連 DI 販売価格DI・仕入価格DIともに5期連続で低下。
- ④ 純益率 DI 2期連続で上昇。来期は低下、来々期は上昇する見通し。
- ⑤ 従業員 DI 前期から低下するも、高い水準が続く。
- ⑥ 設備投資実施企業割合 前期から上昇し、高い水準が続く。

DI (ディフュージョン・インデックス)

当調査のDIは、回答結果の分散程度を指数化したものです。質問に対し「プラス」「中立」「マイナス」の3つの選択肢を用意し、「プラス」の選択肢に回答した企業の割合から「マイナス」の選択肢に回答した企業の割合を差し引いた値で、基本的に「変化の方向」を表します。

DATA

- 調査時点：2015年9月中旬
- 調査対象：日本公庫中小企業事業取引先13,337社
- 有効回答企業数：6,563社 (回答率49.2%)

①-1 業況判断

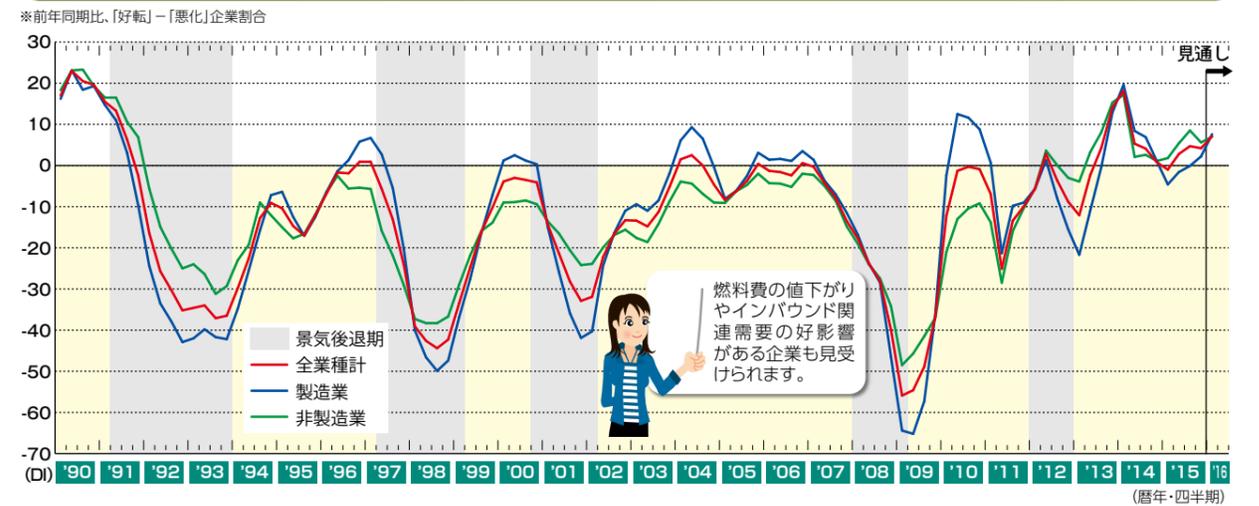
2期連続で上昇しプラス水準

2.8 > 4.7



- 現状 業況判断DI (前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合) は前期から1.9ポイント上昇し、4.7となった。
- 見通し DIは、来期以降もプラス水準が続く見通し。

業況判断DIの推移<季節調整値>



④ 利益

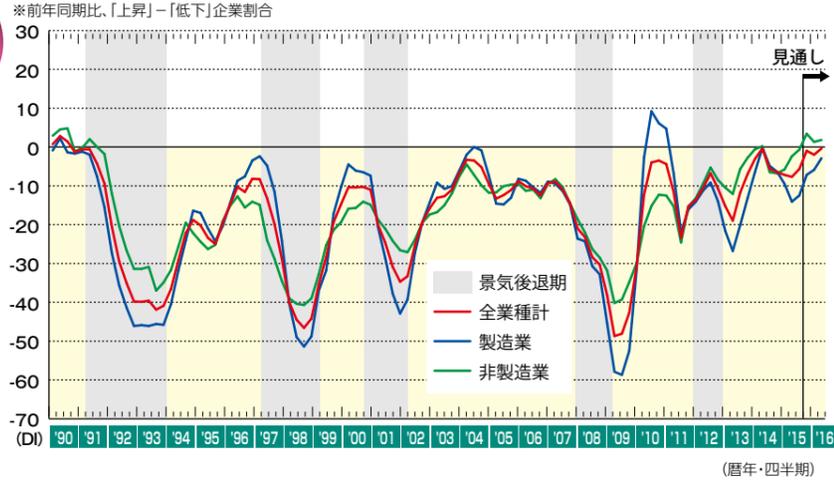
前期から
上昇

▲5.7 ▶ ▲1.0



純益率DI(前年同期比、「上昇」-「低下」企業割合)は▲1.0と、前期から4.7ポイント上昇した。来期は低下、来々期は上昇する見通し。

純益率DIの推移<季節調整値>



⑤ 雇用

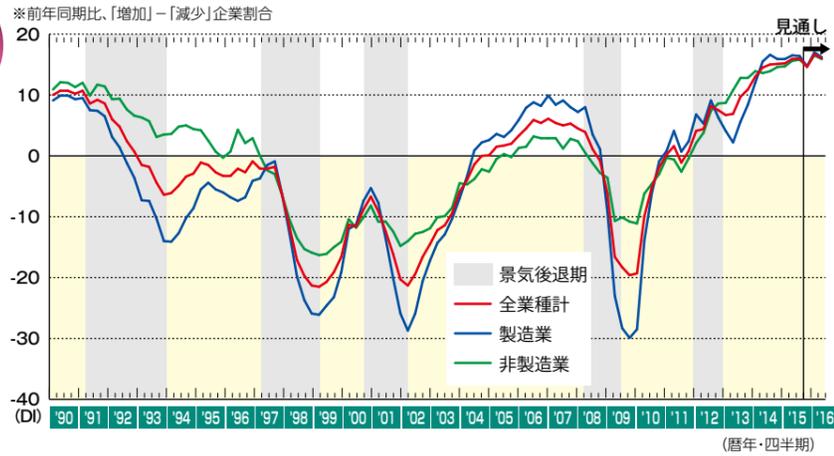
高い水準が
続く

16.0 ▶ 14.6



従業員DI(前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)は、前期から1.4ポイント低下し、14.6となった。11期ぶりの低下となるも、高い水準が続く。

従業員DIの推移<季節調整値>



⑥ 設備投資実施企業割合

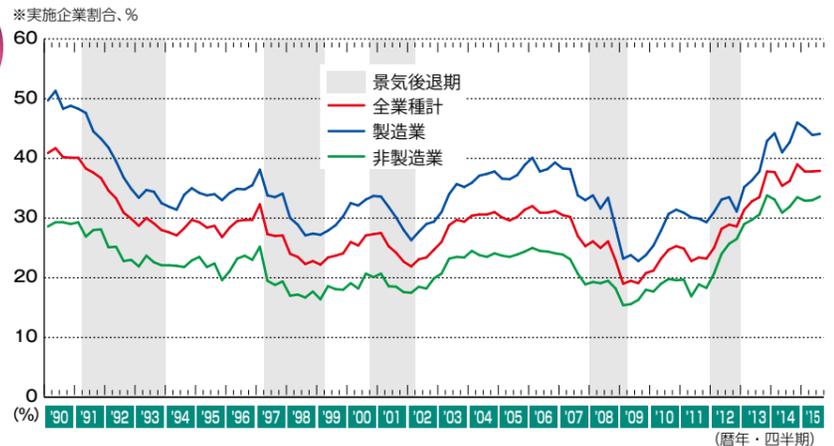
前期から
上昇

37.8 ▶ 37.9



設備投資実施企業割合は、前期から0.1ポイント上昇し、37.9%となった。

設備投資実施企業割合の推移<季節調整値>



全国中小企業動向調査(中小企業編)について

当調査は、中小企業の景気動向などを把握するために、日本公庫中小企業事業のお取引先のご協力を得て1959年以来3ヵ月ごとに実施している調査です。調査結果については、中小企業分野においてわが国を代表するビジネスサーベイの1つとして、関係各位から高い評価を得ています。

② 売上

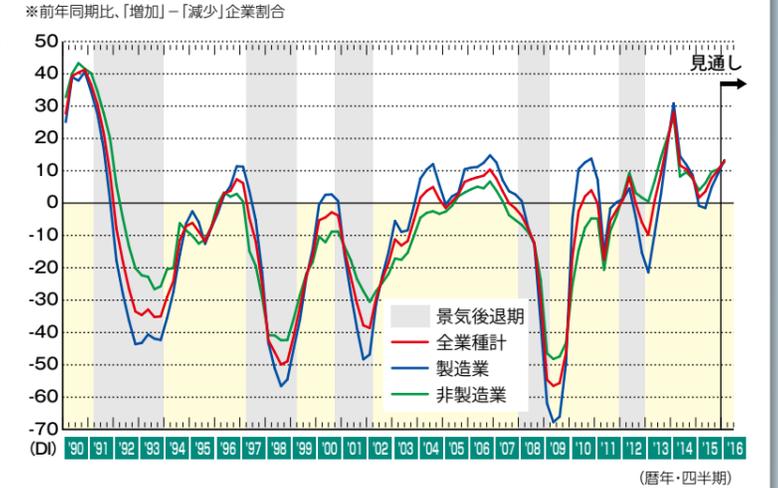
2期連続で
上昇

3.6 ▶ 7.8



売上DI(前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)は前期から4.2ポイント上昇し、7.8となった。プラス水準は10期連続。来期以降も上昇する見通しである。

売上DIの推移<季節調整値>



③-1 販売価格

プラス幅が縮小

6.1 ▶ 4.2



販売価格DI(前年同期比、「上昇」-「低下」企業割合)は、前期から1.9ポイント低下し、4.2となった。低下は5期連続となるも、プラス水準が続いている。

③-2 仕入価格

大きく低下

45.1 ▶ 34.9



仕入価格DI(前年同期比、「上昇」-「低下」企業割合)は、前期から10.2ポイント低下し、34.9となった。低下は5期連続。

価格関連DIの推移<原数値>

